「東京農工大学科学博物館所蔵教育掛図について」

齊藤有里加

近代の視覚教材として教育掛図は重要であった。ここでは東京蚕業講習所由来のイタリア掛図の紹介ならびに、その他の教育掛図類の特徴を紹介したい。

1．イタリア由来掛図について

・10 種 12 点が存在（2 点重複）

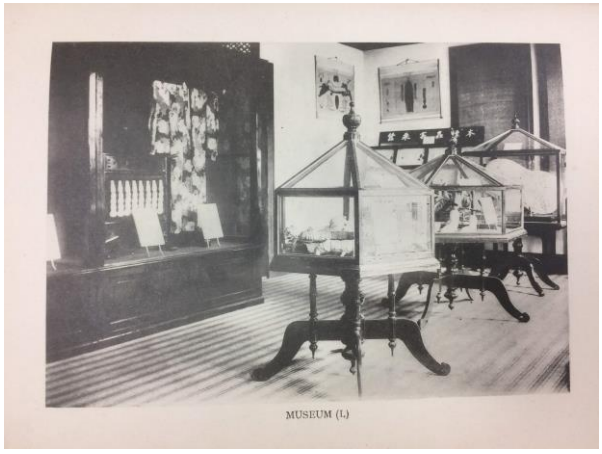
・装丁→掛図様の装丁、カレンダーのような金具での装丁

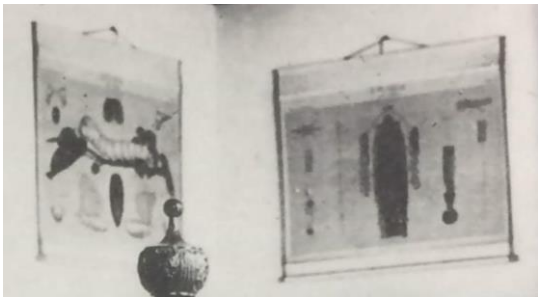
・内容（解剖・病理・栽桑・育蚕）が存在

2．博物館での掛図の利用

標本室内に掛図の展示→明治 42 年には伝来か

→標本室での使用





標本室内部の写真　『CALENDER OF THE TOKYO SANGYO KOSHUJJO』（1909-10）

3．その他の掛図類

・掛図類は 50 点ほど存在。肉筆、印刷が存在する。

・肉筆掛図の一例、蚕病にかかったカイコ。装丁は京都工芸繊維大のものに類似

→印刷教材のほか、オリジナル教材を制作して授業に用いていた。

・どうして蚕病が描かれるのか？

→蚕の死体は融解する。病態を可視化し、感染要因の識別ができるようにする。

→蚕病試験場は微粒子病の阻止のために発足された。当時の蚕病の重要性。

・教育掛図とともに用いた資料

→掛図同様に模型にも蚕病模型がある（常設展示公開中）